



## 秋川下流域の鳥類相とその増減について



あきる野市立前田小学校 5年 大西浩平

## 1 始めに

あきる野市には、豊かな自然があり、生き物がたくさん生息しています。一昨年は淡水魚、去年は水生昆虫について調べました。魚や昆虫が豊富だということは、それを餌とする野鳥も多いはずです。僕は野鳥にも興味を持ち、1年ほど前から、観察し始めました。その結果、100種類近くを確認することが出来ました。しかし、2011年に発行された秋川の鳥に関する書籍<sup>1)</sup>を見て、今では秋川で観察できない野鳥がいることを知りました。2019年の台風による洪水で、多摩川・秋川では、川および河川敷の環境が大きく変わりました。環境の変化が野鳥の観察数と関係しているかもしれないと考え、台風前後の野鳥の種類の変化を比較しました。

## 2 調査方法

川や芦原、田んぼ、緑が多く残る市街地など、多様な環境がある秋川下流域周辺（図1）で、1年にわたり野鳥を観察しました。さらに各種文献、インターネットの情報から10年以上前に生息していた鳥と、台風19号後の最近3年で観察された鳥を調査しました。

### 3 調査結果

僕が昨年の夏から観察して見た鳥に加えて、本などで目撃例が報告されている野鳥を、スズメ目やカモ目のような科目、夏鳥や冬鳥のような渡り区分、外来鳥であるかないか、川や市街地などの目撃場所について表1～3にまとめました。さらに10年前と最近3年に目撲された野鳥についても記録しました。



図1 野鳥の生息環境(A)と主な調査地域(B)

表 1 秋川下流域の野鳥調査（その1）

	鳥名称	目	渡り区分	外来鳥	目撲場所							目撃		備考	
					川	芦原	田	池	墓地	市街地	林	低山	10年以上前	3年以内	
1	ヒメアマツバメ	アマツバメ	留鳥		○				○	○	○	○	×	◎	
2	ワカケホンセイインコ	インコ	留鳥	○	○				○	○	○		×	◎	
3	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		○		○						○	◎	
4	カワウ	カツオドリ	留鳥		○		○	○	○				○	◎	
5	カルガモ	カモ	留鳥		○	○	○	○	○				○	◎	
6	キジ	キジ	留鳥			○	○	○					○	◎	
7	コジュケイ	キジ	留鳥	○		○	○		○	○	○	○	○	○	2)
8	コグラ	キツツキ	留鳥					○	○	○	○	○	○	◎	
9	ヤマガラ	スズメ	留鳥						○	○	○	○	○	◎	
10	モズ	スズメ	留鳥			○	○		○	○	○		○	◎	
11	メジロ	スズメ	留鳥						○	○	○	○	○	◎	
12	ムクドリ	スズメ	留鳥			○	○		○	○	○		○	◎	
13	ホオジロ	スズメ	留鳥			○	○		○	○	○	○	○	◎	
14	ヒヨドリ	スズメ	留鳥					○	○	○	○	○	○	◎	
15	ヒバリ	スズメ	留鳥		○	○		○					○	◎	
16	ハシボソガラス	スズメ	留鳥			○		○	○	○	○	○	○	◎	
17	ハシブトガラス	スズメ	留鳥			○		○	○	○	○	○	○	◎	
18	ハクセキレイ	スズメ	留鳥		○		○	○	○				○	◎	
19	セッカ	スズメ	留鳥			○	○		○				○	◎	
20	セグロセキレイ	スズメ	留鳥		○		○	○	○				○	◎	
21	スズメ	スズメ	留鳥			○	○		○	○			○	◎	
22	シジュウカラ	スズメ	留鳥			○		○	○	○	○	○	○	◎	
23	キセキレイ	スズメ	留鳥		○		○	○	○	○			○	◎	
24	カワラヒワ	スズメ	留鳥			○	○		○	○	○	○	○	◎	
25	ガビチョウ	スズメ	留鳥	○				○	○	○	○	○	○	◎	
26	カオグロガビチョウ	スズメ	留鳥	○				○					○	◎	
27	オナガ	スズメ	留鳥						○	○			○	◎	
28	エナガ	スズメ	留鳥			○		○	○	○	○	○	○	◎	
29	イカル	スズメ	留鳥					○		○	○	○	○	◎	
30	インヒヨドリ	スズメ	留鳥						○	○			○	○	3)
31	ハイタカ	タカ	留鳥		○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
32	ミサゴ	タカ	留鳥		○		○						○	◎	
33	トビ	タカ	留鳥		○	○	○	○	○	○			○	◎	
34	ツミ	タカ	留鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
35	オオタカ	タカ	留鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
36	イソシギ	チドリ	留鳥		○		○						○	◎	
37	イカルチドリ	チドリ	留鳥		○								○	◎	
38	オオバン	ツル	留鳥		○	○		○	○	○			○	◎	
39	バン	ツル	留鳥		○	○		○	○				○	◎	
40	キジバト	ハト	留鳥				○		○	○	○	○	○	◎	
41	カワラバト	ハト	留鳥	○		○	○		○	○	○		○	◎	
42	チヨウゲンボウ	ハヤブサ	留鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
43	カワセミ	ブッポウソウ	留鳥		○	○	○	○		○			○	◎	
44	ブリルダ	ツル	留鳥		○	○	○	○	○	○			○	◎	

表2 秋川下流域の野鳥調査（その2）

	鳥名称	目	渡り区分	外来鳥	目撲場所							目撲		備考	
					川	芦原	田	池	草地	市街地	林	岳山	10年以上前	3年以内	
45	コサギ	ペリカン	留鳥		○	○	○	○	○	○			○	◎	
46	ゴイサギ	ペリカン	留鳥		○	○	○	○					○	◎	
47	アオサギ	ペリカン	留鳥		○	○	○	○	○	○			○	◎	
48	ホトトギス	カッコウ	夏鳥		○			○	○	○	○		○	◎	
49	カッコウ	カッコウ	夏鳥		○			○	○	○	○		○	◎	声のみ
50	ツバメ	スズメ	夏鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
51	コヨシキリ	スズメ	夏鳥		○							X	◎	声のみ	
52	コシアカツバメ	スズメ	夏鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
53	キビタキ	スズメ	夏鳥				○		○	○	○		○	◎	
54	オオヨシキリ	スズメ	夏鳥		○	○		○					○	◎	
55	イワツバメ	スズメ	夏鳥		○		○	○	○	○	○		○	◎	
56	ハチクマ	タカ	夏鳥		○			○		○	○		○	◎	
57	コチドリ	チドリ	夏鳥		○	○							○	◎	
58	チュウサギ	ペリカン	夏鳥		○	○							○	◎	
59	アマサギ	ペリカン	夏鳥		○	○							○	◎	
60	カンムリカツブリ	カツブリ	冬鳥		○	○		○	○				○	◎	
61	ミコアイサ	カモ	冬鳥		○		○	○					○	◎	
62	マガモ	カモ	冬鳥		○		○	○	○				○	◎	
63	ホシハジロ	カモ	冬鳥		○		○	○	○				○	◎	
64	ヒドリガモ	カモ	冬鳥		○		○	○					○	◎	
65	ハシビロガモ	カモ	冬鳥		○		○	○					○	◎	
66	コガモ	カモ	冬鳥		○	○		○	○	○			○	◎	
67	キンクロハジロ	カモ	冬鳥		○		○	○					○	◎	
68	オナガガモ	カモ	冬鳥		○		○	○					○	◎	
69	ヨシガモ	カモ	冬鳥		○	○							○	○	4/2022/2
70	ホオジロガモ	カモ	冬鳥		○								○	○	5/2021/3
71	トモエガモ	カモ	冬鳥		○	○	○						○	○	5/2021/3
72	コハクチヨウ	カモ	冬鳥		○								○	○	3)
73	オカヨシガモ	カモ	冬鳥		○	○	○						○	○	5)
74	ベニマシコ	スズメ	冬鳥		○			○					○	◎	
75	ツグミ	スズメ	冬鳥			○	○	○	○	○	○		○	◎	
76	タヒバリ	スズメ	冬鳥		○	○	○	○					○	◎	
77	シロハラ	スズメ	冬鳥		○		○	○	○	○	○		○	◎	
78	ジョウビタキ	スズメ	冬鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
79	カシラダカ	スズメ	冬鳥		○	○	○	○	○	○	○		○	◎	
80	オオジュリン	スズメ	冬鳥		○	○		○					○	◎	
81	マヒワ	スズメ	冬鳥				○		○	○	○		○	○	2)
82	ヒレンジャク	スズメ	冬鳥				○			○	○		○	○	4/2021/11
83	シメ	スズメ	冬鳥		○	○		○	○	○	○		○	◎	
84	キレンジャク	スズメ	冬鳥				○			○	○		○	○	4/2021/11
85	ユリカモメ	チドリ	冬鳥		○		○						○	◎	
86	ヒクイナ	ツル	冬鳥		○	○	○						○	◎	
87	ハヤブサ	ハヤブサ	冬鳥		○	○	○	○	○	○			○	◎	
88	オニヅル	オニヅル	冬鳥		○		○						○	○	5)

表3 秋川下流域の野鳥調査（その3）

	鳥名称	目	渡り区分	外 来 鳥	目撲場所							目撲		備考	
					川	芦原	田	池	森地	市街地	林	岳山	10年以 上前	3年 以内	
89	アカグラ	キツツキ	深鳥						○		○	○	○	○	◎
90	アオグラ	キツツキ	深鳥						○		○	○	○	○	◎
91	ルリビタキ	スズメ	深鳥						○	○	○	○	○	○	◎
92	ホオアカ	スズメ	深鳥				○					○	○	○	◎
93	ウグイス	スズメ	深鳥			○			○	○	○	○	○	○	◎
94	アカハラ	スズメ	深鳥						○	○	○	○	○	○	◎
95	アオジ	スズメ	深鳥			○	○		○	○		○	○	○	◎
96	クロジ	スズメ	深鳥			○	○		○		○	○	○	○	◎ 2)
97	ノスリ	タカ	深鳥	○						○	○	○	○	○	◎
98	ツツドリ	カッコウ	旅鳥						○	○	○	○	○	○	声のみ
99	ピンズイ	スズメ	旅鳥			○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
100	コムクドリ	スズメ	旅鳥				○	○	○	○	○	○	○	○	◎
101	キアシシギ	チドリ	旅鳥	○								○	○	○	3)
102	コブハクチョウ	カモ	留鳥	○	○		○					○	×	○	1)
103	ソウシチョウ	スズメ	留鳥	○			○		○	○	○	○	×	○	1)
104	ケリ	チドリ	留鳥			○					○	○	×	○	1)
105	ヤマセミ	フッポウソウ	留鳥	○					○	○	○	○	×	○	1)
106	ノジコ	スズメ	夏鳥				○		○	○	○	○	×	○	1)
107	ニュウナイスズメ	スズメ	夏鳥				○		○	○	○	○	×	○	1)
108	サシバ	タカ	夏鳥	○					○	○	○	○	×	○	6)
109	コアジサシ	チドリ	夏鳥	○							○	○	×	○	1)
110	アオバズク	フクロウ	夏鳥						○	○	○	○	×	○	1)
111	ササゴイ	ペリカン	夏鳥	○							○	○	×	○	1)
112	カワアイサ	カモ	冬鳥	○		○					○	○	×	○	5)2017/1
113	ヒシクイ	カモ	冬鳥	○	○						○	○	×	○	1)
114	オオハクチョウ	カモ	冬鳥	○							○	○	×	○	1)
115	アメリカヒドリ	カモ	冬鳥				○				○	○	×	○	7)
116	アメリカコガモ	カモ	冬鳥				○				○	○	×	○	11)
117	アリスイ	キツツキ	冬鳥	○							○	○	×	○	8)
118	オオマシコ	スズメ	冬鳥	○		○		○	○	○	○	○	×	○	1)
119	ハイイロチュウヒ	タカ	冬鳥	○							○	○	×	○	1)
120	ハマシギ	チドリ	冬鳥	○							○	○	×	○	1)
121	オオセグロカモメ	チドリ	冬鳥	○							○	○	×	○	8)
122	ヤマシギ	チドリ	冬鳥					○		○	○	○	×	○	9)
123	タシギ	チドリ	冬鳥	○	○						○	○	×	○	5)2018/7
124	タゲリ	チドリ	冬鳥			○					○	○	×	○	10)
125	セグロカモメ	チドリ	冬鳥	○							○	○	×	○	1)
126	クイナ	ツル	冬鳥	○		○					○	○	×	○	1)
127	カケス	スズメ	深鳥					○		○	○	○	×	○	8)
128	ノビタキ	スズメ	旅鳥		○	○	○				○	○	×	○	6)
129	クサシギ	チドリ	旅鳥	○							○	○	×	○	6)
130	キョウジョシギ	チドリ	旅鳥	○							○	○	×	○	1)
131	アオアシシギ	チドリ	旅鳥	○							○	○	×	○	1)
132	オオシマセキセキ	ミヅヒザシ	旅鳥	○							○	○	×	○	5)2016/5

◎は 僕が実際に観察した野鳥

4 まとめと考察

表1～3の10年以上前と最近3年の観察記録を比較すると、野鳥の種類が大きく減り、全体では2割程度減少していました。表1～3をもとに、データを図2～4にまとめました。渡りの区分(図2)で比較すると、冬鳥が著しく減っていることが分かりました。さらに目別(図3)で調べてみると、チドリ目やカモ目などの水鳥であるシギ、チドリ、カモなどが大幅に減っていることも分かりました。これらの鳥は川原・湿地・干潟・池を好む鳥です。野鳥の主な生息域別の確認種(図4)を見たところ、川での生息数が著しく減少したことが確認できました。一方で、留鳥は、ほとんど生息種が変化せず、市街地では、むしろ増加が確認できました。

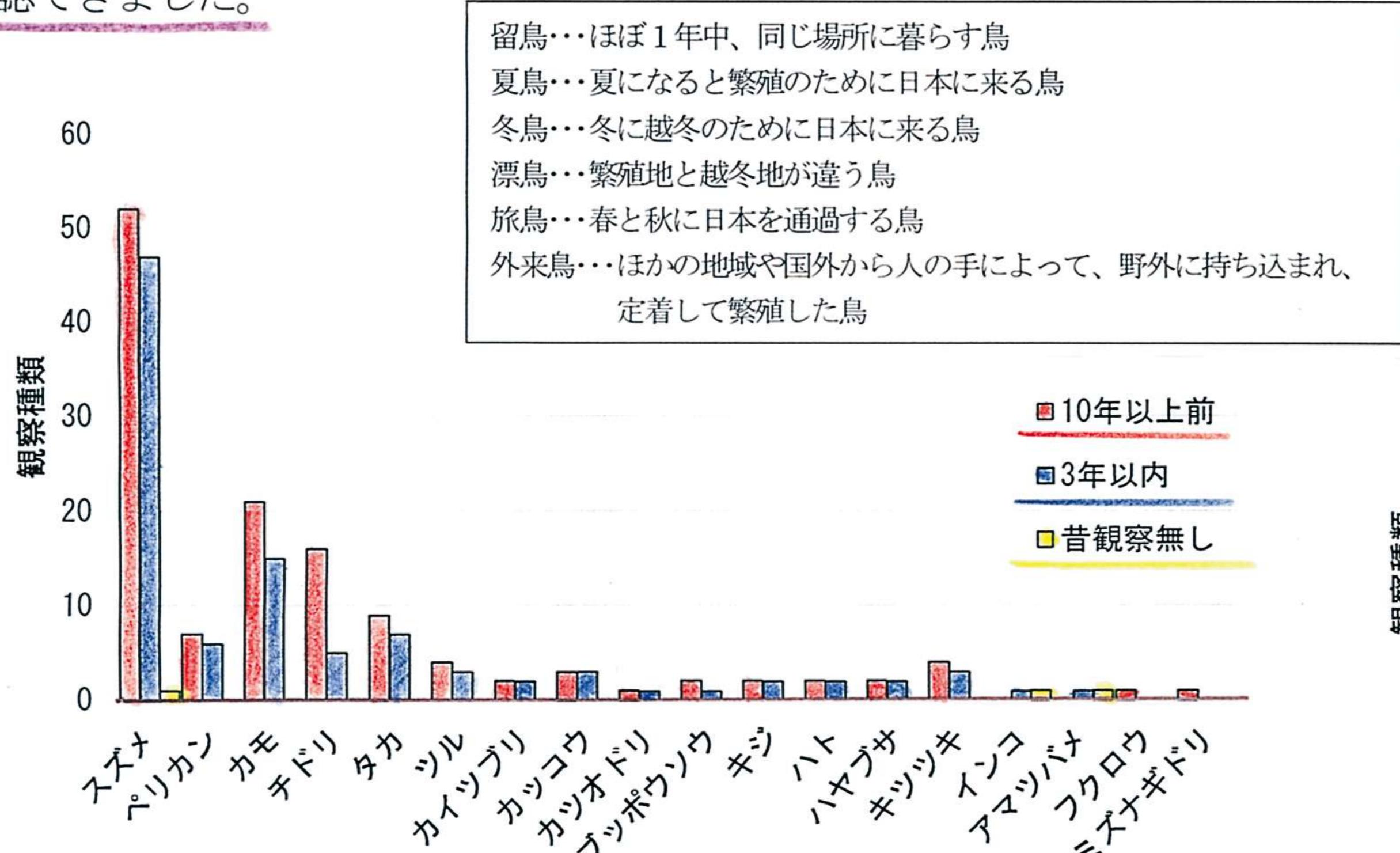
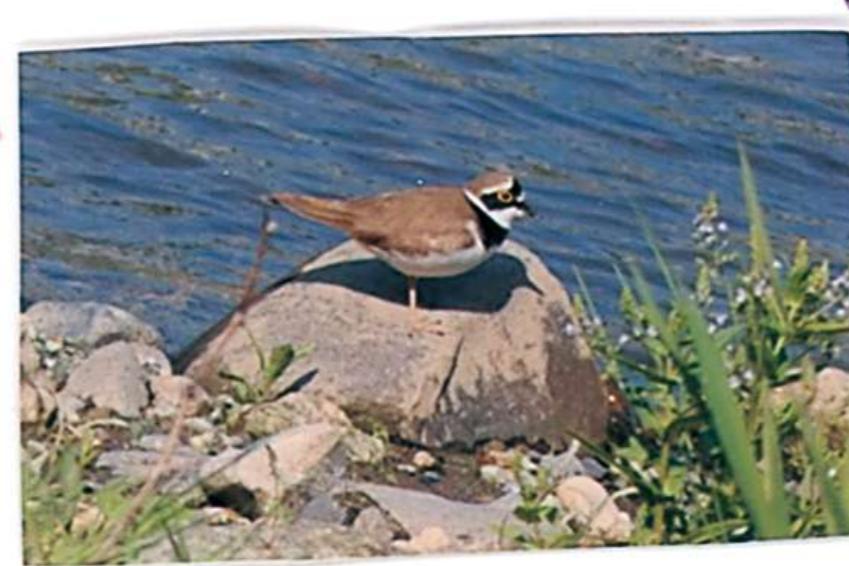


図3 野鳥の目別の観察数の比較図

今回、特に減少が見られた、  
シギ・チドリ類  
キアシシギ



5 まとめ

今回調べてみた結果、特に川原・湿地・干潟・池を好むシギ、チドリ、カモなどが大幅に減っていることが分かりました。また、ほとんどの場所で、野鳥の種類が減少していました。開けた土地を好む野鳥が減少している<sup>12)</sup>と言われていますが、調査結果からあきる野市周辺でも、見通しが良く開けている川や河川敷に生息する野鳥が一番減少していることが分かりました。そして、増えていると言われている林や低山の鳥も、減っていることが分かりました。秋川下流域の地形は、山の近くに川があり、崖に沿って緑も多く残っていて、鳥が集まりやすい貴重な環境です。しかし、2019年の台風19号で多くの芦原が失われ、川原の環境がガラリと変わってしまいました。その後も、堆積した土砂の除去や堤防の工事などが続いている。このことが、川などを目印に渡ってくる鳥たちが減っていることに影響しているのかもしれません。その一方で、古い記録には少ないガビチョウやワカケホンセイインコなどをはじめとする外来鳥は、通学路でも見かけたり、家にいても頻繁に鳴き声が聞こえてくるぐらい身近な野鳥になり、大幅に数を増やしているようです。これから、気候変動や豪雨災害などが続くと、今あまり減っていない野鳥も減少してしまう可能性があります。生き物との共存が大切と言われていますが、人間の都合で自然を壊して、生き物を住みにくくしていることはたくさんあります。水害などから人間の暮らしを守っていく必要がありますが、せっかく豊かな自然があるので、これ以上野鳥を含む様々な生き物を減らさないように、あきる野の環境を守る努力をしていきたいです。

6 参考文献

- 1) 東京秋川鳥紀行 西原健治 文芸の森社 2011  
2) zoopicker <https://zoopicker.com/entrance>  
3) あきる野市森林レンジャー  
4) BIRDER BIRDER 編集部・文一総合出版  
5) 森林レンジャーあきる野新聞 あきる野市役所ホームページ  
6) 狹山丘陵の自然 ブログ 2019年10月7日 多摩川昭和堰探鳥会：狭山丘陵の自然～ベニヒワ♪の自然観察～(exblog.jp)  
7) 数え上げた浅川流域の野鳥Ⅲ 八王子・日野カワセミ会 <https://foundation.tokyu.co.jp/environment/wp-content/uploads/2018/04/G231.pdf>  
8) 東京都西多摩地区(昭島市・日の出町・あきる野市)の野鳥図鑑(多摩川・平井川・秋川周辺) (coocan.jp)  
9) 「知って守ろうあきる野の自然」あきる野市自然環境調査部会・あきる野市環境経済部環境課 平成24年3月発行 リーフレット  
10) 会報「かわせみ」2006年春号 八王子・日野カワセミ会 <http://kawasemi.main.jp/kaihou/pdf36.pdf>  
11) 公開鳥信(2010~2014年) 八王子・日野カワセミ会 <http://kawasemi.main.jp/web1/tyoshin2010.html>  
12) BIRDER 2021年4月号 P36-37 BIRDER 編集部・文一総合出版

可笑のよくな  
11  
ne 変複雜佳 な  
ce 大きな鳴き 声

ジユッ ジュッ ピュ-ピュ-ピュ-  
ピヨ化-ピヨ化-  
トヨ-ルピュ-♪



## 外来鳥のがじゅう

石に同化する  
冬鳥。七八八

